

志あわせ

鳥取県社協だより

Winter 第249号

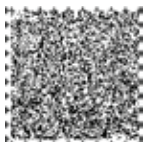
令和7年1月1日発行



切り絵：松葉ガニ／紙原四郎（とっとりいきいきシニアバンク登録）



音声コード「Uni-Voice」を
印字しています。音声コード
をアプリで読み込んでい
ただくと音声流れます。



音声コード Uni-Voice

もくじ

■ 令和7年 新年のあいさつ	2
■ 住民の「思い、やゝ力、をつなぎ合わせる ～市町村社協先進地視察研修～	2
■ チームの円滑な活動を支える役割！令和6年度鳥取県DWA T 先遣隊・コーディネーター研修	3
■ DWA T活動訓練とっとり防災フェスタ（琴浦町総合防災訓練）に参加	3
■ ねんりんピックはばたけ鳥取2024 鳥取県選手団はばたく!!	4
■ ねんりんピックはばたけ鳥取2024 ボランティア活動について	5
■ 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」紹介	6～7
■ 「重層的支援体制整備事業」の社協勉強会を開催	8
■ 令和6年度 社会福祉法人 人事管理研修会のご案内	9
■ トップセミナー・包括的支援体制整備推進研修 WIN・WINの関係づくり ～包括的支援体制の整備を通じた庁内・職場内連携のあり方を考える～	9
■ 鳥取県保育士・保育所支援センターの活動紹介	10
■ 日常生活自立支援事業の運営監視 ～地域での自立した生活への支援に向けて～ 福祉サービス運営適正化委員会	11
■ 赤い羽根共同募金	12～13
■ 企業・団体による社会貢献活動	14
■ 賛助会員を募集しています	14
■ 御寄付御礼	14
■ 「鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業」寄付金募集のご案内	15
■ 鳥取県福祉研究会学会研究発表会のご案内	16

令和7年 新年のあいさつ



鳥取県社会福祉協議会

会長 藤井 喜臣

皆さん明けましておめでとうございます。今年は「巳年」ですね。「巳」の文字は「蛇」を表す象形文字がルーツと言われています。脱皮して成長することから、再生と繁栄につながり、蛇の抜け殻を財布に入れておくとお金がたまるとも伝えられています。「景気の好循環」をはじめとして、多くの掛け声が実を結び、一人ひとりの生活が豊かになることを願う次第です。

昨年、年の初めの能登半島地震から始まりました。まだ支援の手が行き届いていない皆さんがおられることに心を痛めているのは私だけではないと思います。災害は、いつ、どこで発生するかわからないことを教えられ、県内でも地域での普段の備えが、少しずつではあるかもしれませんが、進んでいると感じています。

また一方で、県社協でボランティアセンターを担っていた「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」は、多くの県民の皆さんにボランティアとして参加していただき、鳥取県民の支援の力を感じた次第です。

県社協は『地域福祉の推進とみんなで作る福祉社会の実現』を基本理念としています。人口の高齢化、地域のつながりの希薄化など向かい風の中ですが、私たち福祉に携わる者はもとより、この『志あわせへ』をご覧いただいている皆さんの力によって、基本理念がじわりじわりと広がり、心暖かい地域共生社会が実現することを改めて願う次第です。皆さんよろしくお祈りします。

市町村社協先進地視察研修

住民の「思い」や「力」をつなぎ合わせる

本会では、県外の先進的な取り組みを視察し、研鑽を深め今後の事業展開の参考にすることを目的に、視察研修を実施しています。今年度は大阪府の阪南市社会福祉協議会を視察し、住民の思いを大事に、その力や地域にある社会資源をつなぎ合わせながら取り組む地域福祉活動や活動の基盤となる組織づくりなど、これまでの蓄積を基盤とした施策・事業の展開についてお話を伺いました。

阪南市社協は、今年度日本地域福祉学会「第21回地域福祉優秀実践賞」を受賞されており、その特徴的な取り組みの一つに、漁福連携があります。この取組みは、住民の「漁業と福祉が一緒に何かできた」とのつづきやきを地域包括の職員が受け止め、漁業と福祉がつながる場（会議）を社協が設定したことから始まりました。そこで、住民や社協がそれぞれの思いや困りごとなどを共有し、お互いが協働して「おもしろいこと」ができるのではないかと話し合うなかで様々な取組みが生まれました。例えば、生活に困っている困窮者の就業の場として、人手不足となっている牡蠣小屋の仕事へのマッチングや、釣りをしながら、ひきこもりや不登校の生徒、認知症の高齢者などがゆ

るやかにつながる居場所づくりなど、それぞれの思いがつながり、住民が主体となった地域福祉活動が展開されています。

この他にも、住民発の地域ケア会議、担い手づくりとしての子ども福祉委員の取組みなど、様々な取組みを展開されていますが、どれもこれまでの地道な地域づくりの実践が基盤となり、住民の中から芽生えてきた活動であることを強調されました。

参加者からは「担い手づくりのために小中学生など多様な人材に目を向ける視点が大変参考になった」、「委託事業であっても行政と対等に、協働して進める姿勢に刺激を受けた」などの声があり、改めて社協が進める地域づくりや地域アクセスメントの重要性を認識する機会となりました。本会としても、今回の視察の内容が、今後の事業運営に活かされるよう市町村社協に寄り添いながら支援していきます。



阪南市社協 次長 猪俣健一氏によるご説明の様子

チームの円滑な活動を支える役割！

令和6年度鳥取県DWAAT

先遣隊・コーディネーター研修

鳥取県DWAATは10月25日（金）にDWAAT支援隊が現地で活動するにあたり、その活動を円滑に行うことができるように調整を行う「先遣隊」「コーディネーター」の研修会を開催しました。本研修会は岩手県社会福祉協議会 加藤良太様に実践報告者としてお越しいただき、岩手県DWAATの活動経験を中心に、演習を交えながら指導いただきました。

先遣隊は「支援隊が活動を始めやすくするための調整とその引継ぎを意識することが大切」と教えていただきました。先遣隊はDWAATの活動場所を調整するために、①市町村窓口の担当者や保健師等の関係者との調整、②キーパーソンを把握するなどの活動が中心となります。先遣活動にあたっては、DWAATチーム員数や派遣可能な人数といった限界を把握しながら、対応するべきニーズと活動するべき避難所を見極めることが重要な業務であることを学びました。

コーディネーターの役割として、活動場所（避難所等）から離れることが難しいチーム員に代わり、①関係機関との連携、②会議等に参加し



情報収集や情報発信、③DWAATが有期限であることを関係者に周知しながら、撤退が適切な時期と方法の調整、などといった外部との調整活動と、チームと行動しながら、時間で変化する避難所の状況を俯瞰で見えて、①必要な判断、②資機材の調整、③後発チームの編成の検討、④チーム間の引継ぎ支援、といった事務局や支援隊等の内部との調整活動があることを学びました。

今後、チーム員の方たちとのワーキンググループなどを通じて、先遣隊やコーディネーターの役割の整理など円滑な派遣活動に向けた準備をしていきたいと思います。

DWAAT活動訓練

とっとり防災フェスタ

（琴浦町総合防災訓練）に参加

鳥取県DWAATは9月15日（日）にとっとり防災フェスタ（琴浦町総合防災訓練）に参加させていただきました。琴浦町・日本赤十字社鳥取県支部DWAATと合同で訓練しました。本訓練は能登半島地震の教訓を踏まえ、避難所における市町村行政職や自主防災会等の組織、日赤DWAAT等との連携を意識しました。

活動訓練はチーム員9名が参加し、「アセスメントを受ける避難者の気持ちを知るため、要配慮者役」と「チーム員」に役割を分けました。

訓練内容は主に左記の内容です。

- 1 避難所運営者等との打ち合わせ
- 2 要配慮者役へのアセスメント
- 3 アセスメント後の対応検討
- 4 避難者（地域住民）へDWAATの説明や実際の避難生活での困りそうなことや不安なことの聞き取り
- 5 避難所ミーティングへの参加（行政職や地元自主防災会、避難者の代表者、DWAAT）
- 6 なんでも相談窓口の設置
- 7 地域住民へDWAAT活動と災害時の避難所等に関する説明

訓練を通じて、行政や医療チームとの情報共有の方法や連携に関する

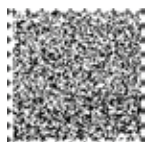


避難所ミーティングの場面

コミュニケーションの難しさ（具体的な対応の提案や何をいつ・どうするのかなどの情報伝達）、対象によってアセスメントのやり方を工夫するなどの課題等が見えました。

訓練に参加したチーム員からは、「初めて訓練に参加したが、思った以上に大変。これからも定期的に研修や訓練に参加して、いざという時に動けるようにしたい」などの感想をいただきました。

今後、課題等に対して検討していくとともに、研修や訓練を通じて、関係者との連携及びチーム員同士での連携も深めていきたいと思います。



ねんりんピック はばたけ鳥取2024 鳥取県選手団はばたけ

第36回全国健康福祉祭とつとり大会（ねんりんピックはばたけ鳥取2024）が、10月19日（土）から22日（火）の4日間にわたり鳥取県で開催されました。

大会には47都道府県と20政令指定都市から約1万5千人が参加。鳥取県からも例年の約5倍となる総勢667名の選手・監督が、バウンスボールやeスポーツといった初種目競技を含めた全28種目に参加しました。

19日（土）総合開会式は、天気はあいにくの荒れ模様で初の屋内開催となりましたが、交流大会が行われた20日（日）・21日（月）は秋晴れの下でスポーツと文化の競技が実施されました。

大会は県内全ての市町村で行われ、選手の皆さんは鳥取県民の暖かい声援を受けながら競技や交流を存分に楽しめました。

鳥取県選手の皆さんも、日頃の練習成果を発揮され、優秀な成績を残されました。その中で、優勝された方々をご紹介します。

優勝された皆さん

★個人種目

- マラソン 1位 河崎 靖恵
(70歳未満3km・女)
- マラソン 1位 徳永 和義
(70歳以上10km・男)
- 水 泳 1位 八波 淳一
(65～69歳背泳ぎ25m及び50m・男)
- 水 泳 1位 小山 幸伸
(65～69歳自由形25m及び50m・男)
- 水 泳 1位 前田 京子
(70～74歳背泳ぎ25m・女)
- 水 泳 1位 南家 道子
(65～69歳平泳ぎ50m・女)

★団体種目

- 剣 道 1位 鳥取県A
- バウンスボール
男子の部 1位 若葉台
女子の部 1位 スワン



グラウンド・ゴルフ



バウンスボール



ダンススポーツ



サッカー



eスポーツ

※上記以外の成績はホームページに掲載しています。

鳥取ことぶきネット 検索


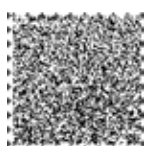
■ 問い合わせ先 ねんりんピック連携室 ☎0857-59-6332 ■

パソコン修理～ 介護ソフト～ 伝送設定～

OA機器 リース メンテナンス

有限会社 **松本事務機**

鳥取市千代水2丁目117番地 ☎0857-31-6661
<http://values.main.jp> FAX 0857-31-6662

ねんりんピック はばたけ鳥取2024 ボランティア活動について



第36回全国健康福祉祭（ねんりんピック）はばたけ鳥取2024では、大会運営補助や歓送迎など、大会期間中には延べ、1,387名のボランティア（※配置決定者数）にご協力いただき、大会を大いに盛り上げました。

「総合開会式について」

19日（土）には、県立布勢運動公園（ヤマタスポーツパーク）にて総合開会式が行われました。当日は荒天により、屋内会場（県民体育館）に変更になったことなどに伴い、混乱が生じた場面もありました。一方で、来県された選手・関係者の方からはあたたかい労いや、感謝の言葉をいただきました。

「関連イベントについて」

大会期間中は関連イベントが県内各所で開催されました。イベントには選手だけでなく、県民の方も数多く来場し、世代を超えて楽しむこと



イベント会場での案内所運営補助の様子



総合開会式での選手荷物預りの様子

ができました。ボランティアの皆様には各会場の美化作業や案内所の運営補助、オリジナルイベントの対応など、多岐にわたるご協力いただきました。



選手団代表入場行進の様子



来場者受付の様子

「総合開会式について」

22日（火）には県立県民文化会館（とりぎん文化会館）にて総合閉会式が行われました。ボランティアの皆様には、おもてなしとして来場者に鳥取の和菓子の配布や、弁当引換や荷物預り、来場者受付、美化活動等ご協力いただきました。また、閉会式の選手団代表入場時には、小学生が作成した各都道府県・政令指定都市の横断幕を持ち、選手代表と入場していただきました。

「事前活動について」

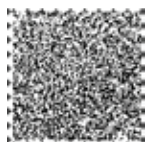
ボランティアの皆様には大会期間中だけでなく、鳥取らしいおもてなしで選手をあたたかく歓迎するため、様々な事前活動を行っていただきました。ボランティア発の企画として、選手へ競技別缶バッジと、県民からのメッセージカードの事前送付や、意見交換会で提案された観光地や特産品の構図をもとに歓迎パネルを作製するなどし、選手をお迎えしました。大会を盛り上げる活動としては、節目イベントに加えて、県内イベントでのねんりんピックブースにて事前PR活動等も行っていただきました。このような様々な事前活動には、延べ475名のボランティアの皆様にご協力いただきました。



選手に贈ったメッセージカード



活動の様子はホームページにも掲載しています。



■ 問い合わせ先 ねんりんピック連携室 ☎0857-59-6338 ■

社会福祉法人による

「地域における

公益的な取組」紹介

社会福祉法において、社会福祉法人の責務化とされている「地域における公益的な取組」について、県内の社会福祉法人の取組みをシリーズで紹介しています。

今回は、子ども服等のリユースイベントについて紹介します。

えんくるり事業

～ 参画法人による
子ども服等リユースの取組み～

えんくるり事業では、リユースイベントをしたい！と企画された際にスムーズな開催ができるよう、子ども服等をストックし、必要に応じて提供しています。

自法人でリユース品を集めるのと開催までに時間を要するため、このストック品提供はご好評いただいています。



【取組みの目的】

「家庭で不要になった子ども服等が必要としている方々に無料で提供することにより、地域内での資源の有効活用と、支援を必要とする方々の生活の質の向上を図っています。



【取組み内容】

コロナ禍はイベントの開催が難しく、実施している法人は少なかったのですが、コロナ禍が明けて活発な開催が進んでいます。

今年度、えんくるり事業のストックを使用しリユース品のブース出展をされた4法人を紹介します。

○ 敬仁会

6月1日開催

ふれあいはおとまつり

○ 八頭町社会福祉協議会

10月6日開催

子育て支援フェスタ in 八頭

○ 岩美町社会福祉協議会

11月4日開催

いわみフレッシュフェスティバル

○ こうほうえん

11月8日開催

介護の日フェスティバル

このほかにも、自法人あるいは法人や関係機関が連携し、リユース品の収集、提供保管まで一環して行っている法人や、子育て支援センターの巡回相談と連携してリユースコーナーを設置する取組を進められている法人があります。

【参加者の声】

ふれあいはおとまつりでは参加者の方へアンケートを実施し、以下の嬉しいお言葉をいただきました。

・ 小さい子はすぐにサイズが小さくなるからとてもありがたい。

・ 無料で服をいただけで良かったです！

・ 保育園着で使用する服がいただけありがたいです。

・ 初めて参加しました。子どもから大人まで楽しむことができてよ

かったです。



【終わりに】

おさがりを譲り合うリユースを試みたいがどうしたらいいかわからない、準備が大変そうなどお悩み、相談などがありましたら気軽にお問い合わせください。

えんくるり事業事務局

(0857-59-6332)



孤独・孤立を防ぐつながり
～地域や社会福祉法人としてで
きること～

平成29年4月に改正社会福祉法が完全施行され、社会福祉法人は、地域福祉事業の主たる担い手として、地域における公益的な取組が責務化され、他の事業主体では対応が困難な福祉ニーズに対応していくことが期待されています。

えんくるり事業では、令和5年度よりひきこもりの状態にある方等への社会参加・就労支援として社会福祉施設等での体験受入れを行う「ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業」を実施しています。

本セミナーでは、各法人の地域における公益的な取組をさらに促進するとともに、法人連携により支援のネットワークを拡充し、より充実した支援につなげることを目的としています。

この度はノートルダム清心女子大学人間生活学部 中井俊雄准教授にご講演いただきました。



講演では、成長の過程に重要な幼少期の幸福度、地域との関わりやお互いに支え合う共生社会についてなど、詳細な統計資料や分析をもとに丁寧にお話をいただきました。また、ご自身の経験や取組みから見えてきたひきこもりの現状や、社会の課題についても具体的な事例を交えて説明いただきました。

後半のシンポジウムでは、「社会福祉法人が取り組むひきこもり支援」をテーマに、鳥取県厚生事業団 障害者福祉センター 厚和寮 生駒哲一 寮長、伯耆の国いくらの郷 仙田 慎介 次長、鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 川瀬部長より、えんくるり事業の就労体験事業で実際に体験受入れを行った経緯や取組み内容に

ついて報告いただきました。体験者の方へ寄り添う姿勢、見守る、認め合うことの重要性を感じられたとお話があり、改めてひきこもりの方への理解や支援のあり方を考える機会となりました。

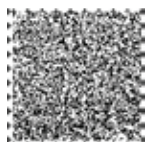


当日は民生児童委員協議会や生活困窮者自立支援関係など、多くの分野、職種から計67人のご参加があり、以下の感想等をいただきました。

【参加者の声】

- ・ 様々なデータから読み取る現状がとてもしリアルで興味深かったです。
- ・ 地域住民を巻き込んで地域のつながりを増やし、お互いに支え手となるような地域づくりを目指したいと思いました。
- ・ 県内にこのような素晴らしい取組みをしている法人があることを知り心が打たれました。
- ・ 社会福祉法人ならではの伴走支援が興味深かったです。
- ・ シンポジストの報告が自分の子どもや友人について優しく語っているようで心が温まりました。
- ・ 実際にひきこもり支援を取り組んでみたいという気持ちになった。
- ・ 就労体験事業の具体的な支援事例を聞くことができとてもよかったです。
- ・ まわりの法人と協力して支援できることを探していきたい。

令和7年度も地域貢献セミナーの開催を予定しています。皆様のご参加お待ちしております。



「重層的支援体制整備事業」の 社協勉強会を開催



令和6年10月25日に、地域共生社会の実現に向けて「重層的支援体制整備事業」を中心に国で考えられていることを共有して社協だからこその地域福祉を考える勉強会を開催しました。

「重層的支援体制整備事業」については、人口減少・少子高齢化等が進む中、単身化・孤立化の拡大により、社会的孤立対策である「生活困窮者自立支援事業」や高齢者対策の「地域包括ケア」などの属性別施策に「地域づくり」とを一体的に取り組む、いわゆる属性別の「タテ割り」施策では対応できない問題の広がりに対して、「包括的な支援体制」による、各自治体ごと既存資源を活用したデザインができるものとなっています。

当日は、厚生労働省で「重層的支援体制整備事業」を所管する地域共生推進室の支援推進官である犬丸智則氏を招き、「地域共生社会の実現

に向けてー重層的支援体制整備事業を活用してー」と題し、施策の目指すところや先行事例の紹介などのお話のあと、参加者とのディスカッションが和やかな雰囲気の中で行われました。

前半のお話の冒頭「包括的な支援体制の整備」を上手く回すために「重層的支援体制整備事業」で体制整備をするのだとの説明があり、それらは地域共生社会の実現を目指す中にあるとお話を聞いたことで、全体の位置づけがはつきりし、参加者にとっては、頭の整理が出来た様子でした。



続いて、複合化・複雑化する住民ニーズに対して求められる「包括的支援」というお話では、本人がご真

ん中、人口・出口を豊かに…このことから、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施することが大切だとお話がありました。

それぞれの支援を別々の組織が（委託等で）担うことが多い中、組織や部門を越えたチームで取り組む必要性が語られ、「地域づくり」を多機関とのネットワークをもって、協働してすすめる社協の役割への期待が話されました。

そして、よく言われる「何が重層的なのかかわからない」という疑問に対して、東京都柏江市の整理例を参考に、①支援・②つなぎ・③出会いの3つの重層化を図ることによる、支援体制の整備を図ることが重層的支援体制整備事業である、とお話に頷く参加者が多くありました。

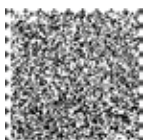
後半の講師と参加者とのディスカッションでは、「すべての住民のための事業であること」、「これまで培ってきた専門性や政策資源を活かすこと」、「これまで手が届かなかったことができるように体制を構築する事業であり、体制をつくっていくプロセスこそが最も大切な」などの、

考え方について、参加者から、「行政も一緒に聴いてもらいたい」、「という声が多くありました。

行政から重層的支援体制整備事業委託の相談があれば、受け身ではなく、ぜひ社協側から「事業を上手く回すための体制についての提案」をして欲しいとお話が講師からあり、「それこそが重層的支援体制整備事業には事業費がなく人件費だけが掛かっている所以です」と、事業の本質に迫るコメントで結ばれました。

参加者各々、自治体ごとのデザインに基づく事業を継続し、新たな取り組みを展開する社協、新規に事業受託する社協、いずれについても「実施体制の整備に関する行政への提案力」が必要となってくるとの思いを共有して散会しました。

今後も、このような勉強会の開催を通して、県内社協間のつながりを強めながら、社協が主体的に取り組みをすすめる環境づくりを県社協としても目指していきたいと思えます。



令和6年度 社会福祉法人 人事管理研修会のご案内

社会福祉施設を経営する法人にとって、人材確保策は、最も重要であり、また最も困難な課題となっています。

本研修会では、離職率を低下させる工夫の実践を通じた魅力的な職場づくりの手法を具体的に学びます。

日 時	令和7年2月14日（金）13：30～15：30
参加対象	社会福祉法人の役員、施設長、人事担当者等
会 場	はごろもホール（湯梨浜町）オンライン参加も可能（Web会議用ソフト Zoom）
講 師	社会福祉法人 あいの土山福祉会 廣岡 隆之 氏
定 員	40名（会場受講者）
参加費	2,000円／人
申込期限	令和7年2月7日（金）
内 容	人材確保・定着セミナー 具体的実践方法

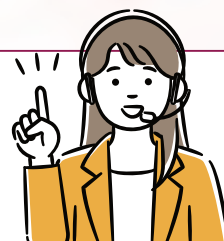
申し込み及び問合せ先

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5

県立福祉人材研修センター内 鳥取県社会福祉協議会 福祉振興部

電 話 0857-59-6344 F a x 0857-59-6341

メール keieisidou@tottori-wel.or.jp



トップセミナー・包括的支援体制整備推進研修

WIN・WINの関係づくり

包括的支援体制の整備を通じた庁内・職場内連携のあり方を考える

近年、様々な「生活のしづらさ」を抱えているにも関わらず、必要な支援を受けられない方がいるなど、孤独・孤立の問題が顕在化してきており、分野を超えた包括的な支援が求められています。

本研修では、包括的支援体制の必要性を改めて認識し、体制の整備を通して庁内・職場内の部署等の分野を超えてお互いにWIN・WINの関係となる連携のあり方について考える機会として11月18日に開催しました。

講演では、三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員 齋木由利氏より、包括的支援体制とは何かについて、自身が各地を訪問されて聞き取った事例などを踏まえながら分かりやすく、かみ砕いてお話しをいただき、改めて理解を深める機会となりました。

シンポジウムでは、齋木氏の講演を踏まえ、鳥取市役所 山内健氏、鳥取市中央人権福祉センター 川口寿弘氏、智頭町役場 高垣智恵子氏より、各市町での包括的支援体制の整備に向けた、庁内連携を進めるための取組みについて報告をいただきました。

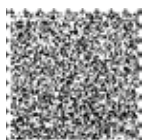
鳥取市からは、分野の違う関係部署や機関の担当者同士が関係性を築けるよう、定期的な会議の開催やグループワークを試みていると

いった報告がありました。智頭町からは、担当者が気になることなどを気軽に持ち寄ることができるときの会議を設定することにより、各部署でできることを出し合い、連携して支援をしていくことができ、そのことが各部署の負担軽減にもつながるなど、連携することによる効果やメリットについてお話しいただきました。

参加者からは、「目的意識を共有することで縦割り業務に横ぐしを指すきっかけになると感じた」「つながり・仲間づくりを難しく考えずに気軽に話せる関係性を作っていきたい」などの感想が寄せられ、包括的支援体制の整備をきっかけとした関係づくり・仲間づくりを学ぶ機会となりました。



■ 問い合わせ先 地域福祉部 ☎0857-59-6332 ■



鳥取県保育士・保育所 支援センターの活動紹介

11月10日(日)、倉吉市の鳥取短期大学において「保育の魅力発信&就職フェア 保育のおしごとマルシェinとりたん」を開催し、高校生、学生などの方にご来場いただきました。

このイベントは、保育を学ぶ(学びたい)学生および保育資格を活かした就職を希望する方、保育職場に関心がある方などを対象に、鳥取県内の保育園をはじめとする保育・児童福祉施設等の魅力発信と情報提供、および保育士資格を活かして活躍できるいろいろな職場を紹介し人材確保につなげることを目的として



開催しました。

午前中の魅力発信ガイダンスでは、保育士資格を活かして保育園以外にも活躍できる職場があることについて具体的にお話を聞く貴重な機会となり、メモをとりながら興味深そうに聞き入る参加者や、講師の方からの質問にも積極的に自分の考えを述べる学生の姿が見られました。

昼食は、会場前に集合したキッチンカーでお目当てのメニューを見つけて楽しそうに並ぶ参加者の行列がみられ、にぎやかな雰囲気に包まれました。



午後からのワークショップ「現場の保育士とのお茶会」では、保育士のおしごとについて疑問等をざっく

ばらんに質問する時間を設けました。また、「発達に合わせたおもちゃ作りコーナー」では廃材等を再利用したおもちゃ作りを通じて、園で製作活動する際の子どもへの声掛け等保育現場での工夫等も教わりながら体験していただきました。



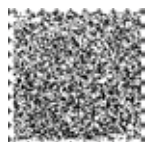
ワークショップでの体験等を通じて、保育のおしごとについてより身近に感じていただくきっかけになったのではないのでしょうか。ぜひ将来の職業選択の際に役立てていただきたいと思えます。

今回は、県内の保育人材確保に向けた初めての内容となるイベントで、大変有意義なものとなりました。関係者の皆様には大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。



本センターでは、引き続き、保育や保育士魅力を保育現場の皆さんと一緒に発信していきます。その他、保育の仕事や資格について知りたいなど、気軽にセンターまでお問い合わせください。

フェイスブック
で随時情報発信
しています！



■ 問い合わせ先 保育士・保育所支援センター（福祉人材部内） ☎0857-59-6342 ■

日常生活自立支援事業の運営監視

地域での自立した生活への支援に向けて

日常生活に不安を抱えている高齢者や障がい（知的障がい、精神障がい）のある方などは、福祉サービスに関する情報入手や利用方法・手続がわからない場合があります。そこで、県社協では福祉サービスの適切な利用の援助を行うとともに、金銭管理や行政手続きなどを支援する「日常生活自立支援事業」を市町村社協の協力を得て実施しています。

当委員会では、この事業が適正に運営されるよう「運営監視小委員会」において、県社協から定期的に事業の実施状況の報告を受け助言等を行うとともに、市町村社協に対し事業実施体制や支援状況、預かり物件の管理状況等について現地調査を実施し、改善すべき事項等講評を県社協に提出しています。



現地調査の様子

最近の事業実施上の課題としては、キャッシュレス決済の利用の問題や市町村社協の法人後見との連携による支援、関係機関・権利擁護機関等との連携強化などがあります。当委員会では、福祉サービスの利用援助が適正に行われ、誰もが地域で安心して自立して暮らしていけるよう、引き続き運営監視を行ってまいります。

福祉サービス運営適正化委員会

■ 問い合わせ先 福祉サービス運営適正化委員会 ☎0857-59-6335 ■

MORRIX JAPAN Corp.



私たちは人にやさしい快適環境を創造し、
未来をデザインするヒューマン企業です。

介護・自立支援・栄養管理・勤怠・給与・会計・セキュリティシステムから介護用品まで介護現場をトータルでサポート致します。

お客様の環境と問題点をお聞きし、事務の効率化、介護現場の効率化を共に考え最適なシステムをご紹介します。

■ 当社の取扱い介護・自立支援・栄養管理システムメーカー ■

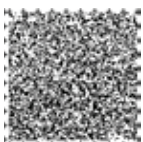
ND ソフトウェア株式会社（ほのぼの NEXT）
株式会社 ワイズマン
株式会社 東経システム（福祉見聞録）
株式会社 日立システムズ（福祉の森）
株式会社 コーエイコンピュータシステム（EIBUN）

株式会社 モリックスジャパン

本社 〒680-0912 鳥取県鳥取市商業町 203-6
TEL 0857-23-3641 FAX 0857-22-3329

倉吉店 〒682-0812 鳥取県倉吉市幸町 529
ユーミーレジデンス 1-3 号
TEL 0858-24-5451 FAX 0858-24-5452

モリックスジャパン





赤い羽根共同募金

～じぶんのまちを良くするしくみ～



応援したい団体・事業を選んで、寄付をお願いします

地域の福祉課題解決に向けて具体的なテーマを掲げて取り組む団体と、鳥取県共同募金会が協働して募金を呼びかける「つかいみちを選べる募金」を行います。本年度は令和7年1月1日（水）から3月31日（月）までの3か月間、5団体が募金活動を展開します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



令和6年度「つかいみちを選べる募金」助成事業一覧

番号	団体名	事業名	募金目標額
1	公益社団法人 とっとり被害者支援センター	犯罪被害者等支援事業	1,000,000
2	特定非営利活動法人 こども未来ネットワーク	子どもの笑顔発見プロジェクト2025	350,000
3	とっとり子どもの居場所ネットワーク “えんたく”	こども食堂対象文化芸術体験事業	300,000
4	一般社団法人 鳥取県腎友会	慢性腎臓病の予防の推進と慢性肝臓病患者への情報発信	300,000
5	一般社団法人 鳥取県母子寡婦福祉連合会	令和7年度全国母子寡婦福祉研修大会	200,000
合計			2,150,000



ハンセン病療養施設訪問事業

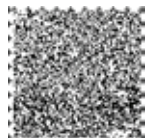
現在日本国内にはハンセン病療養所が13か所あり、そのうちの3つの療養所で4名の鳥取県出身の元患者さん（現在は全員が完治している）が生活されています。毎年鳥取県共同募金会では、県民の皆様から寄せられた募金の一部をお見舞金として本県出身の方々へ贈呈しています。

11月12日に、岡山県の「長島愛生園」を鳥取県社会福祉協議会役員人権研修と合同で19名が訪問し、歴史館学芸員による説明を受けながら施設見学、納骨堂参拝を行いました。

県共同募金会配分委員会の相見委員長と山浦副委員長から入所されているお二人それぞれに見舞金を贈呈しました。お二方とも90歳を超えられていますがお元気な様子で穏やかな日常をお過ごしです。

一方、研修会に参加した県社協役員は、ほぼ全員が初めての長島訪問であり、歴史館学芸員からの「ハンセン病により重大な人権侵害が繰り返された」実態を解説され、衝撃を受け言葉を失い、涙が流れる場面もありました。

瀬戸内海に浮かぶ長島から見渡せる風景はとても美しく感動します。しかし、この海を利用した要塞ともいえる施設に隔離され、幸せな人生を奪われた元患者さんのことを決して忘れてはならない。また、新たな感染症による差別を起こしてはならないと心に刻む研修となりました。





ガイナーレ鳥取のホームゲームで共同募金をPR

令和6年度の共同募金のキックオフイベントの1つとして、ガイナーレ鳥取のホームゲーム2試合の会場でチームと選手の御協力をいただき、会場を訪れた多くのサポーターに共同募金への協力を呼びかけました。

10月13日（日）開催のオールガイナーレYAJINスタジアムでの対いわてグルージャ戦では3,113人、27日（日）開催のAxisバードスタジアムでの対カターレ富山戦では、2,345人のサポーターに大型ビジョンによる動画の放映やパネル展示により赤い羽根共同募金の目的や具体的な使い道などを紹介しました。

また、選手自らが行った募金活動では多くのサポーターに呼びかけていただき、両会場を合わせて66,550円の寄付をいただきました。



ねんりんピック はばたけ鳥取 2024 の会場で共同募金をPR



令和6年10月19日（土）～22日（火）、「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」をテーマに開催された「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」の協賛イベントとして、19日から21日の3日間、鳥取市布勢のヤマタスポーツパーク（鳥取県立布勢総合運動公園）内の鳥取県民体育館前に設けられた協賛イベント会場にブース出展し、10月1日に始まった令和6年度の共同募金事業の広報と会場を訪れた選手・関係者の皆様に募金の呼びかけを行いました。

また、多くの方に募金への協力の呼びかけに応じていただき、3日間で33,292円の寄付をいただきました。

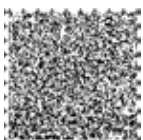
※両イベントでいただいた寄付金は、来年度助成金の一部として活用いたします。

ありがとうメッセージ

農作業の効率化と生産向上を図る機器整備事業

特定非営利活動法人 創造（倉吉市）

農福連携の一環で畑仕事をしています。これまでの管理機は古く重たく、使い方にコツがいるため誰もが使える機械ではありませんでした。加えて畑仕事ができる利用者さんも減っていましたが、この助成金で軽くて簡単な、初心者でも扱える管理機を購入することができました。力仕事が苦手な職員を含め、畑仕事をしたことがない利用者さんにも関わってもらいみんなで工賃アップを目指して頑張ろうとおもいます。本当にありがとうございました。



■ 問い合わせ先 鳥取県共同募金会 ☎0857-59-6350 ■

企業・団体による

社会貢献活動

因幡地区郵便局長会から寄贈の申し出を受け、福祉団体へつなぎました。

「使用済み切手・未使用はがき・未使用切手等」11月13日、因幡エリア56局の郵便局で集めた使用済み切手等の贈呈式を開催しました。



当日は因幡地区郵便局長会会長の山田一孝様より本会へ「社会福祉にご活用いただきたい」と目録が渡されました。内容は次のとおりです。

- ・ 使用済み切手 20,049枚
- ・ 未使用切手 1,296枚
- ・ 未使用はがき 1,809枚

使用済み切手は国際支援を行うNGOへ、未使用のものは新しい切手やはがきに交換して県東部の福祉団体に寄贈いたします。

賛助会員を募集しています

本会では、地域福祉の推進とみんなで作る福祉社会の実現に向けて、“**県民参画による福祉のまちづくり**” “**安心して暮らせる仕組みづくり**” “**福祉を担う人づくり**”を中心に地域の様々な機関・団体と連携して、安心して暮らせる地域社会をめざしています。

賛助会員の皆様のご協力をいただき、県内の地域福祉をより一層充実していきたいと考えています。本会の趣旨にご賛同いただき、会員としてご支援、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

会費（毎年度） 団体 一口：10,000円
個人 一口：3,000円

【賛助会員になるには】

入会を希望される方は、本会ホームページより加入申込書をダウンロードしてください。必要事項を記入の上、本会まで郵送してください。入会申込書受理後、会費納入のご案内をお送りします。

◆申込書送付先◆

〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野1729-5 鳥取県社会福祉協議会 総務部

■ 問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331 ■

御寄付御礼

(順不同)

御寄付を賜り誠にありがとうございました。御意志に従い活用させていただきます。

〔地域福祉振興基金〕への御寄付 (生活困窮者に対する支援など、地域福祉の推進を支援しています。)

富国生命保険相互会社 様

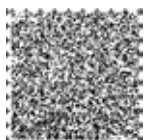
鳥取県大衆音楽協会 会長 西谷 勝歳 様

〔鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業〕への御寄付

(ひとり親家庭や児童福祉施設に措置または里親に委託された子の大学等への進学を支援します。)

個人 16名

■ 問い合わせ先 総務部 ☎0857-59-6331 ■



「鳥取県ひとり親家庭等高等教育進学支援資金事業」 寄付金募集のご案内

「鳥取県内の経済的に厳しい状況におかれている、ひとり親家庭等の生徒が大学等への進学を希望する際に、入学準備に必要な費用を支援したい」と県内の篤志家の方からの寄付金を財源に、令和2年度に創設しました。

鳥取県内に在住する高校生または高等専修学校生であって、市町村民税の所得割が非課税世帯の「ひとり親家庭・児童養護施設に措置または里親に委託された生徒」の、大学・短大・専門学校への進学を支援します。

経済的に厳しい状況にある中、学業成績が優秀な生徒に進学支援金として、1人10万円を給付します。過去4年間で52人の生徒を支援してきましたが、昨今の物価高等を考慮するに今後も継続的に該当世帯の支援が必要です。

**事業の趣旨に御賛同いただける方は、
1人1口3千円（目安）からの寄付に御協力ください。**

寄付の方法など詳細はホームページをご確認ください

URL : <https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/8/>

■ 問い合わせ先 福祉振興部 ☎0857-59-6344 ■

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	特定感染症		補償開始日から補償*		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

*特定感染症についても10日間の免責期間がなく、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行食用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈引受会社〉
TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00 ~ 17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30 ~ 17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ23-11315より抜粋)

鳥取県福祉研究学会研究発表会のご案内

1. 日 時 令和7年2月22日（土） 10:20～15:10

（発表題数によっては時間が変更になる場合があります）

2. 会 場 鳥取看護大学・鳥取短期大学

（鳥取県倉吉市福庭854 電話0858-27-2800）

3. 参加対象

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している方
福祉に関する調査研究している方
その他福祉に関心を持つ団体・個人

4. 内 容

① 10:20～ 研究発表（口述発表及びポスター発表）

●口述発表 各分科会において、分野ごとに口述発表

【研究分野】 高齢者福祉（施設系・在宅系）、障がい児・者福祉、
児童福祉、地域福祉、その他社会福祉領域

●ポスター発表 ポスター掲示にて発表

※それぞれの発表要旨・時間については、令和7年2月10日以降に、鳥取県社会福祉協議会
ホームページに掲載します。

（URL：<https://www.tottori-wel.or.jp/common/gakkai/>）

② 13:20～ シンポジウム

テーマ『孤独・孤立とつながりづくり～鳥取県内の取組報告～』

登壇者等（コーディネーター）

◇鳥取大学 地域学部 地域学科 講師 菰田 レエ也 氏
（報告）

◇特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ

◇社会福祉法人 伯耆の国 地域共生社会実現拠点 いくらの郷

◇鳥取県 福祉保健部 ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課

③ 14:50～ 授賞式・閉会

5. 参加申込

「参加申込書」が必要ですので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

6. 参加費

① 一般参加者・発表参加者 1,000円

② 学生・障がい当事者 500円

7. お問い合わせ先

鳥取県福祉研究学会事務局（鳥取県社会福祉協議会 福祉人材部内）

電話 0857-59-6336 F A X 0857-59-6341

福祉関係者の皆様をはじめ、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

感染症の拡大や自然災害等のやむを得ない事態が発生した場合、本研究発表会
を中止・延期、または開催方法を変更することがあります。中止等の場合は、県
社協ホームページでお知らせしますので、参加前にご確認ください。



音声コード Uni-Voice